

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）検出率

算式

検出数/在院患者延数×1000

対象

全入院患者（全診療科・全病棟）

考察

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）は重症の皮膚や軟部組織感染症、血流感染、肺炎、腸炎などの原因の一部であり、患者の死亡率・入院期間延長に悪影響を及ぼします。また、院内の感染対策が不十分であると院内拡くに伝播することから、院内の感染制御を示す指標として重要とされています。当院の発生率は全国の国公立大学病院と比較しても乖離はないが、今後も感染対策を厳重に行っていく必要があると考える。

計画

今後も計画的・継続的にモニタリングし、感染管理的問題に介入していく。

